雑木林通信

NO.198 ／ 2023.4.22
島熊山の雑木林を守る会
〒560-0001 豊中市北緑丘 3-1-30-101
TEL/FAX 06(6849)2435

島熊山最強の植物　クズ厄介払い

2 月 12 日（晴）

立春を過ぎると日中の気温も上がり、回りの空気も春めいて来た。森の手入れの今日は、平年より気温も高く絶好の作業日和となった。

森の手入れ

この日のテーマは年末からかかっているクズ退治である。参加者全員で特養側のすぐ南の尾根から法面のクズ伐採にかかった。法面はかなりの角度があるうえ足元にはササが茂っているので、とくに高齢者の我々は、すべったり、足を引っかけないように慎重に作業を進めなければならない。

クズのつると言っても太いものは直径 3～5cm にもなり、手ごわい相手だ。ふだんあまり作業に入っていない場所なので足元のササも太く固い。

ただ、今の時期は樹木は葉を落とし、森の中は明るくて、よく見通しがきくし、虫や蚊はいないし、クモの巣もなく作業ははかどる利点がある。

今日は好天にめぐまれて気温もあがり、久しぶりに汗をかいた。

Google 検索によれば、クズの花は秋の七草に数えられるほど優雅な反面、その性状はきわめて強健、どのような土地でも繁茂し、種子だけでなくつるから発根、萌芽するとあり、島熊山の最強でもっともやっかいな植物だと思います。

（米虫 一男）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３月 12 日（晴）

ここ数日で一気に春到来、鶯の鳴き声に迎えられて 14 名が集まりました。今回は「ウーノ、ドゥーエ、トレ、クワットロ」と、イタリア語バージョンのラジオ体操で準備体操。

本日の作業は、新御堂筋側緑地内の折れ竹、枯れ竹の伐採です。リーダーからの安全第一の注意事項を再確認。基地から拠点となる途中の広場まで、満開のミモザの木を見上げたりコクランやギンラン・キンランの群生地を確認しながら、事前に土田明さんが歩き易いように落ち葉をかき分けて下さった緑道を進みました。

予想外の倒れ方／押しても引いても…
ままならぬ竹伐採 お疲れさま

いざ作業に取り掛かると、積もった落ち葉や足場の悪い斜面に気をつけながら竹を伐採するのはとても大変でした。太く固く斜めに空高く伸びきった竹や密集した竹を、倒す方向を考えながらノ

35 本の竹を倒し、枝払いして積み上げた

コギリでギコギコやるのですが、予想とは違う方向に倒れてしまったり、途中他の木に引っかかって押しても引いても全く動かせない事もありました。特に葉が沢山付いた竹の枝払いに時間と労力を使いました。先輩の皆さんにアドバイスを受けながら何とか作業を続けました。

本日の竹伐採の成果は合計 35 本。まだまだ過剰に繁茂している竹の一掃にはほど遠いようです。

皆さん少々バテ気味ながら、作業後に差し入れの美味しいお菓子で一服。立派に出来上がった「島熊山の雑木林を守る会」のボランティア募集チラシを 2 枚ずつ持ち帰り、各自広報する事になりました。 皆さん、お疲れ様でした！

（森山 真理子）

看板＋ポスターで会の活動アピール

今年度の大きな課題となっていた会員募集活動の再開が３月にさっそく具体化しました。

まず「この緑地は私たちが自主管理しています」の看板の、より目につく特養側観察路入口への設置。西町バス停付近に建てられていた看板の移転を予定していましたが、台風による損傷で撤去されていたことが判明。豊中市の倉庫に唯一残っていた看板を活用して新設してもらいました。

また、３年ぶりに「里山ボランティア募集」のポスター・チラシ＝写真右＝を作成。新会員の日高千賀子さんの作品です。Ａ４版にタヌキ、トンボ、鳥、昆虫、キノコ、草木と自然満載。「自分のペースで豊中の里山を楽しもう！」と呼びかけています。ＱＲコードからホームページをすぐ見られます。４０部作成し、３月 12 日の活動参加者に配布。公民館や図書館などを訪ね、掲示してもらいました。お住いのマンション掲示板やなじみのお店を含め 10 か所以上に出ています。

相乗効果を図るために、３月 19 日の活動日には、「自主管理」の看板の上に「募集」のポスターを掲示しました＝写真上。これで、観察路を散策したり、初日の出を拝みに上がる人たちにも、だれが森の手入れをしているのか、どうすれば参加できるかを知ってもらえます。

４月９日（晴）

若竹探し　足動かし穂先の盛り上がりで

天気が良い活動日で 16 名が参加した。里山ボランティアの募集チラシを見て２名の新規参加があった。

今日の予定は、若竹伐採をメインとした雑木林の整備である。島熊山は乾燥していたが、一昨日の雨で雑木林は一息ついている。

活動基地に集合して、準備運動として関西弁のラジオ体操で体を動かし活動を開始する。若竹には表裏の年があり、昨年は裏で今年は表であるという。多くの若竹が期待できる。

若竹探しは、足を動かして穂先の盛り上がりから探すが、穂先が地上から目につく高さまで出ており苦労なく探せる。

今年は、太い・短い若竹が多く見られた。若竹の周囲を道具を使って掘り収穫するが、取りたい気持ちが強く、つい力が入りすぎ、作業後に疲れが残る原因となる。伐採した若竹は、16 名で 160 本となった。持ち帰った若竹は、タケノコご飯にして味わった。　　（土田　明）

清掃ハイキング

２月 19 日（雨のち曇）　　**雨ニモマケズ**

朝から小雨混じりの天気、昼過ぎには一時上がったものの、島熊山に近づくにつれてまたポツポツ。これは間違いなく雨天中止で、誰も来ていないのではと思っていると、豊島高校正門前に集団が…。14 人が集まり、アウトドア用の雨具をつけて対策ばっちりです。清掃、モニ 1000 調査に加えて、今年の主要課題のクズ刈りも４人で行うとのことです。あわててカマとノコギリを拝借して山に入りました。

図書館で「募集」発見、即参加メール

「里山ボランティア募集」のポスターを千里図書館で見つけた北田勝章さん＝写真右、成田正則さん＝同左＝が記載のメールに連絡。４月９日に里山体験しました。

易信子代表の案内で特養からの観察路を歩き、島熊山の植生や葛刈りなどの活動の説明を受けました。後半は若竹伐採も行いました。

北田さんは「囲いをつくって希少種を守っていることに強い印象を受けました」、成田さんは「タヌキは昔いた動物だと思っていたら今も棲んでいると聞き、びっくりしました」と感想。さっそく入会を決めました。